

令和元年度 10 月期居宅介護支援部会議事録

書記	伊藤
文責	鶴沢

開催日時	開催場所
令和1年10月30日(水) 18時00分 ~ 20時00分	こども支援センターげんき5階研修室3

出席者・講師など	
居宅介護支援事業所72事業所 80名参加	(内 主任ケアマネージャー45名)
浅草かんわケアネットワーク研究会理事ケア薬局薬剤師NPO法人HAP 宮原富士子氏	
浅草かんわケアネットワーク研究会副理事管理緩和ケア認定看護師さくら醫院 倉持雅代氏	
浅草かんわネットワーク研究会理事ケアマネジメントセンターやなか 主任介護支援専門員 西澤文恵氏	

次 第
1 足立区保険給付課より
2 事務局より
3 挨拶
4 講義「終末期における看取り・意思決定～エンドライフケアの考え～」
5 事務連絡

議 事

<p>1 足立区保険給付係 太田様より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度者の福祉用具貸与利用について10月より、軽度者にかかる福祉用具貸与確認申請書の有無が確認できない場合に過誤調整処理を要する場合もある。 <p>2 事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月26(土)27(日)の帝京科学大学学園祭のお手伝いの報告 ・11月11日(月)の介護の日フェスティバルの案内 ・12月12日(木)の交流会の案内 ・今回の台風についての状況報告 <p>3 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮原様より、「介護について語れる町」かんわケアネットワーク研究会の紹介 がん哲学とは、薬剤師と薬局の協働、薬局の地域での役割について <p>4 講義「終末期における看取り・意思決定～エンドライフケア(ACP)の考え～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアの定義→「生命を脅かす病に関連する問題に直面する本人家族のQOLを痛みや身体的、社会的、スピリチュアルな問題を早期に見出し、適格に評価し対応することで苦痛を予防し和らげることを向上させるアプローチである」 ・苦痛を全人的に捉えること。 ・最後まで安心して過ごすには、どう生きたいかを話し合っておくこと。 ・人生の最後に起こる身体の変化、兆候、その時のケアについて。本人のケアを丁寧に行うことは家族へのケアにもつながる。 ・多職種連携により、自分の職種が何をし、多職種はどんなことができるのか、それぞれの役割を理解する。 ・人となりがわかる関係を築くことは連携強化や対応力、知識の向上となる。緩和ケアはがんの患者さんだけに適用されるものではない。 <p>【ループワーク】</p> <p>テーマ： 事例に対して家族として地域の住民やまたはケアマネとして何かできるかを考える。</p> <p>事例： 女性46歳、大腸がん術後再発。中学生の男子2と夫の4人家族、抗ガン治療を続けていたが病状が進行、食事が摂れず入院したが本人家族の強い希望で家にかえりたい。一時的に点滴加療し、在宅療養を目指す。</p> <p>ADL： 経口摂取も少しならなんとかできる。トイレ歩行がやっと。</p> <p>【発表】</p>

議 事

○家族の目線

・夫:仕事もあるし、まだローンもあるので働かないといけない。長男:NSIはいつでもきてくれるのか?遊びたいしゲームもしたい。本人:家にいたい。最後をみせたい。

○気づいたこと

・男が多いので、家に帰って身の回りのことを一人でできるのか。・女の手が欲しい・夫の負担や治療費が大変
・実感がはあるのか、・残していく家族や子への本人の思い・家族が本人へ対する死の受容ができるか・生活のインフラの整備が必要なのでは・2号保険者である。

○ケアマネとして

・自宅でどう過ごしたいのかや家族の思いを聞き取る・息子2人をどう支えるかなども本人の希望をきいておく
・残される男の人が家の家事をできるような支援や家族の再家族化など

【講師より】

○チームへの連携を意識すること

○本人の意思決定にケアマネがどこまで関われるかが課題

○つ情報をつなぎ、チームをどのようにつくりあげていくかがケアマネの役割。

5 事務連絡

次回開催日時 令和元年11月25日(月) 18:00~20:00

開催場所 こども支援センターげんき5階研修室3

テーマ 「未定」 決まり次第お知らせします。